



研究班紹介

第7班 戦時下日本の国策紙芝居研究

安田 常雄 (非文字資料研究センター客員研究員 / 研究班代表)

本研究は、戦時下国策紙芝居の図像、担い手、地域での上演などの実態分析などを通して、戦時下大衆文化の構造や機能を検証し、戦時体制の特質を再検討することを目的とする。具体的には、第四期の成果『国策紙芝居からみる日本の戦争』（勉誠出版、2018）を継承しつつ、未発見の紙芝居資料の発掘に努めるとともに、さらに分析を深め、より広い視角から多様な問題を深めることが課題である。たとえば第一には、拠点の一つであった北海道紙芝居など地域での活動を明らかにすること。こうした国内各地域における担い手や上演の機能分析は、継続的な課題となっている。第二には、台湾で着手した植民地紙芝居の分析を、朝鮮半島や中国占領地、さらに東南アジアなどに拡張すること。第三は、国内・植民地を

通して、同時代の大衆文化（映画・演劇・写真・漫画など）との関係を比較検討すること。こうした成果を、研究会・シンポジウムなどで共有しつつ、新たな研究成果のまとめを展望したいと考えている。

